

**札幌新まちづくり計画市民会議  
共生・地域づくり分科会第4回会議概要録**

**日 時** 平成16年2月24日(火) 17時30分～20時15分

**場 所** さっぽろテレビ塔2階ホール「すずらん」

**出席者** 杉岡直人 会長・伊藤淑子 副会長  
岩田美香 委員 ・柴川明子 委員 ・燕 信子 委員  
(欠席：黒田澄雄 委員)

**次 第**

- 1 開 会
- 2 議 事
  - 1) 分科会報告のまとめ方の基本的な方向性
  - 2) 杉岡会長提出資料(分科会報告案1)の説明
  - 3) 伊藤副会長提出資料(分科会報告案2)の説明
  - 4) 分科会報告のまとめ方
  - 5) 「市の素案に対する意見の整理(事務局提出資料)」について
  - 6) 分科会報告書の作成について
- 3 閉 会

**議事の概要**

最初に、今回の会議については、杉岡会長から提示された「共生・地域づくり分科会第4回会議の進行について」の流れに沿って進めていくことが確認された。

その後、杉岡会長提出資料(分科会報告案1)、伊藤副会長提出資料(分科会報告案2)についてそれぞれ説明がなされ、それに基づいて、今後どのように分科会の報告をまとめていくべきかということについて議論が交わされた。結論として、後日、杉岡会長、伊藤副会長、事務局によって分科会報告案をとりまとめ、次回の全体会議の前に各委員に提示することが確認された。

## 意見交換の概要

### 杉岡会長提出資料（分科会報告案1）について

#### 杉岡会長

- ・ 委員の皆さんからの具体的な問題提起や意見をもとに、市民の地域での取り組みやそのサポートのあり方について、行政と市民の協働という視点から整理してまとめた。
  - ・ 4つの「柱となる具体的な取り組み」を提示し、この取り組みを進めるために、具体的な市民の活動を生み出し、サポートしていく仕組みや仕掛けづくりについて「取り組みに必要な視点」としてまとめた。
- Q 「高齢者・障がい者の多様な居宅ニーズやケアニーズに応じた良質な住宅づくり」とあるが、これは「住宅」そのものか、あるいは「暮らし」ということか。（燕委員）
- A 「施設から在宅へ」という流れの中で、グループホームや自立支援のための住宅の確保は、単に住宅をつくるだけではなく、そこでの生活を可能にするようなケア機能の強化・総合化がないとうまくいかないということ。（杉岡会長）
- ・ 「住宅づくり」とすると建物のイメージのみになる。例えば「地域生活づくり」といった言葉であれば、ハードとソフト、さらには制度的なイメージも得やすいと思う。（燕委員）
  - ・ 高齢者住宅のような具体的な住まいのイメージが浮かぶように「良質な住宅」としてしている。（杉岡会長）
- Q 「高齢者・障がい者・乳幼児などを対象とした、総合的なケアサービスの仕組みづくり」というのは、例えば富山式のようなイメージか。（燕委員）
- A 当然それも含む。身近なところで様々なサービスを受けられるようにするには、一人が複数のサービスを提供する仕組み、そして、利用者のライフステージに即してケアサービス全体をきちんと組み立てることが必要。（杉岡会長）
- ・ 今話題になっている介護保険と支援費制度の問題にまで踏み入るような言い回しになってはいないか。（燕委員）
  - ・ 総合的なケアの問題は行政としても課題として扱っているので補足してほしい。（杉岡会長）
  - ・ 高齢者・障がい者・乳幼児をまとめるという考え方は今のところ持っていないが、介護保険導入を機に、専門的機能の連携や地域での住民活動によるものなどが総合的に供給され、それが一人の要援護者に結びつくことが必要という考え方がある。市内の在宅介護支援センターが、こうした情報やサービスの連携・調整機能を果たしていくことができれば、地域に住み続けるためのシステムづくりにつながっていくのではないか。（事務局）
  - ・ 増加する痴呆性高齢者の尊厳を維持していくために、小規模多機能型拠点が望ましいという考え方もあるが、一方で事業としての採算面の難しさもあり、今後、モデルを探しながら模索していく。（事務局）
- Q 障がい者に関して目指す方向性は「施設から地域へ」であるが、高齢者についてはどうか。（燕委員）
- A 意識調査でも「住み慣れた地域で暮らしたい」という高齢者が多くなっているが、施設でケアしなければならない場合もある。拠点が充実してくれば地域に住み続けることも可能になってくると思う。（事務局）
- ・ 地域で当たり前暮らししていくための総合的なケアサービスの仕組みづくりには賛成。

目的をはっきりさせた形にしてほしい（燕委員）

- ・ 「少子化対策の推進」の「取り組みに向けての意見」のところで、「市の設置する児童クラブと民間の学童保育所の連携・協力体制づくり」とあるが連携は今でも取れている。私が言ったのは、学童保育所への家賃補助や公設民営化などである。（燕委員）

## 伊藤副会長提出資料（分科会報告案2）について

### 伊藤副会長

- ・ 文章形式の資料が報告書、表はその説明資料。委員の方々からの意見をもとに一部書き換えた。（伊藤副会長）
- ・ 全体として「検討する」という表現が多くなっているが、こういうことを検討してもらうことが次の施策への一つの足がかりになるのではないかと提言しているものをご理解いただきたい。（伊藤副会長）
- ・ 報告書も柴川委員の意見等を取り込んでまとめたものになっている。最後の「今後の施策」の部分に今後あるべき基本的な地域づくりの仕組みについての考え方を述べた。（伊藤副会長）
- ・ 燕委員の「施設は作りません」という表現に関しては、その先の議論がたくさん出過ぎてしまう印象がある。（伊藤副会長）
- ・ 「札幌市障害者保健福祉計画」にサブタイトル「施設から地域へ」も合わせて入れてもらいたい。（燕委員）

Q 少子化のところに「児童クラブの充実」を入れるべきか。（伊藤副会長）

A 児童クラブにはいい点もあるが、専用の部屋がなく、家庭のようにくつろげないのではないかという議論もある。（燕委員）

- ・ 全体的なバランスを見ると、学童保育所に関する部分ばかりが多く、かつ、表現のレベルも異なる。もう少し抽象度を高めてはどうか。（岩田委員）
- ・ 「児童クラブの生活の質を高めます。」という表現がよいのでは。（燕委員）

## 分科会報告のまとめ方について

- ・ 現在2つの報告案が出ているが、分科会としては「こういう問題について今後取り組んでいく必要がある」という市民サイドの意見をまとめる役割があるので、1つにまとめる方向で議論を進めていきたい。（杉岡会長）

Q 1つにまとめる作業はいつ誰がするのか。（伊藤副会長）

A 私と副会長と事務局が協力して一つにまとめる案を出して、それを各委員で議論するという形にしたい。（杉岡会長）

Q もう一度分科会を開くのか。（伊藤副会長）

A 最終的に確認できるような形をとりたい（杉岡会長）

- ・ 全体会議の中の一分科会であること、一覧性ということから考えると、杉岡会長の具体的な取り組みの4本柱はわかりやすい。「柱となる取り組み」を置くことにより重点戦略課題の縦のつながりも見えやすい。あとは、杉岡会長資料 と伊藤副会長資料 と文章をどうまとめるかということではないか。（岩田委員）
- ・ 本日欠席の黒田委員が述べていた町内会の部分の議論は非常に大事だと考えるが、伊

藤副会長資料からはそれが落ちている。(岩田委員)

- ・ 両案を全体会議に出すべきと思う。それだけ議論が盛り上がり、議論を深めたということ全体会議に示したうえで、一本化の要請があればその時作業をすればよい。(伊藤副会長)
  - ・ 両案で報告することが可能であればそれがよい。一つにまとめなければいけないのか。(柴川委員)
  - ・ それは自分達で決めること。ただ、両案は全く別のことを言っているものではない。一つにまとめなければ、分科会として全体会議にどのような意見を報告したいのかわからないのではないか。
  - ・ 各分科会の共通性を考えて大きな切り口で新たに杉岡会長がまとめることはそれはそれで賛成だが、伊藤副会長案と杉岡会長案には、それぞれに言っていること、言っていないことなど相違がある。それを1つにしてしまうのはいかがなものか。(燕委員)
  - ・ 両案の資料 はどちらかにまとめるべきであり、2つの表を出す必要はないのでは。杉岡会長案の資料 がわかりやすく良い。(岩田委員)
  - ・ 文化・人づくり分科会での柱立ては資料のとおり。(杉岡会長)
  - ・ 文化・人づくり分科会の資料は、各委員から出された「具体的な取り組みに向けての意見」と、それを踏まえて整理した「重点的に取り組む施策」という構成になっている。ビジョン編に向けての「分科会としての取り組むべき方向性」については、「重点的に取り組む施策」が中心。一方で各委員から出された具体的な意見もわかるような形になっている。(事務局)
- Q 他の分科会もそういうまとめになりそうか。(岩田委員)
- A 「文化・人づくり」、「環境・都市機能」の分科会はおおよそ同じ方向性となっている。(事務局)
- ・ 第3回全体会議の中で、分科会のまとめ方について統一性ということに必ずしもこだわることはないという意見をいただいた。これまでの議論の経過とかけてきた手間ひまを大切にすべきではないか。(伊藤副会長)
- Q 出席委員以外の方で、分科会報告のまとめ方について意見はないか。(杉岡会長)
- A 伊藤副会長の資料 は市の素案に沿った形でまとめてあり、素案に足りない部分を補足していただいている。事務局としては「今後3年間で重点的に取り組むべき事柄」と、「素案に対する意見」の二つの柱で提案をいたければと考えている、伊藤副会長の資料 を杉岡会長の資料 の柱の形でうまくおさめることができないかと思う。(事務局)
- ・ 私の資料に伊藤副会長が整理されたものを組み込む整理ができれば異論はないのではないか。(杉岡会長)
  - ・ 杉岡会長案の資料 に私の資料 をつけるという意見か。(伊藤副会長)
  - ・ AとBといった違う案でまとめたものは分科会報告としてなじまないという考えを前回の分科会で示したが意見が割れてしまった。皆さんの感触をお聞きしたうえで判断を共有したい。(杉岡会長)
  - ・ その形でまとめられるのであれば、全体会議に分けて出さなくてもいいし、そのほうがよりいいと思う。(岩田委員)
  - ・ 杉岡会長案は伊藤副会長案に比べて具体的な部分が少ないと思う。また「取り組みに向けての視点」の矢印の部分はまだ検討の余地があると思う。杉岡会長の意見を伊藤副会長案に入れ込んで、それを杉岡会長の切り口でまとめ、伊藤副会長案は資料としてつけるということであれば納得。(燕委員)
  - ・ 私の資料の基本を崩さずに、杉岡会長の資料 に私の資料 をつけてくださるのであ

れば折衷案としていいと思う。(伊藤副会長)

- ・ 16日の全体会議までに私の責任で一つにまとめた形で整理し、その結果を再度皆さんからコメントをもらい修正していく。基本的に各分科会の話し合いはそれぞれ似た形で組み立てられているが、その中で私たちの分科会らしいまとめができるように工夫したい。事務局から本日欠席の黒田委員のコメントを紹介してほしい。(杉岡会長)
- ・ 黒田委員からは、杉岡会長、伊藤副会長の案をある程度融合しながら一つの案を作っていくのがベストではないかというコメントをいただいた。(事務局)

**「市の素案に対する意見の整理(事務局提出資料)」について**

- ・ 前回各委員からいただいた意見を一覧表で整理しているが、特に問題があれば指摘していただきたい。(杉岡会長)  
(各委員から意見なし)